

おおいた親の学び プログラムの進め方

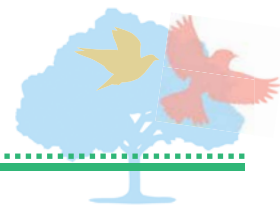


ファシリテーターの方へ

- プログラムごとに進め方の例を載せています。1プログラムの実施時間は60分間です。時間の長短に応じてアレンジして活用してください。
- グループの人数が多いと、グループ内の発表や話し合いの時間が長くなりますが、時間が短いときでも3～4人グループで実施してください。
- 無理に結論を出したり、まとめたりする必要はありません。プログラムの活動をとおして気づいたことをこれからの子育てで活かしていくように、参加者への励ましのメッセージで締めくくってください。

学習を始める前に参加する方と一緒に確認しましょう

1. 参加者同士の思いや考えをお互いによく聴きましょう。
2. できるだけ話しましょう。ただし、無理はしないこと！
3. 一人だけが話し過ぎないように注意しましょう。
4. このプログラムの活動中に知った個人情報は、他の人に話さないようにしましょう。



①

生活リズム・生活習慣

ねらい

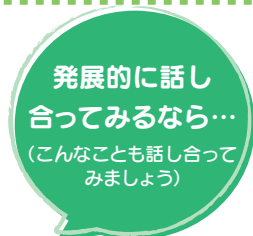
- 子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、バランスのとれた食事、十分な休養・睡眠が大切であることを再確認する。
- 子どもの生活習慣に関わる悩みや気になることを参加者で話し合いながら、家庭生活を見直し、よりよくするための工夫を考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計）

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|--|-----------|--|--|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | 今日のテーマは、「生活リズム・生活習慣」です。 これから皆さん一緒に、子どもの生活を振り返りながら、 毎日の子ども生活にとって必要な「早寝・早起き・朝ごはん」 など、子どもの生活環境について考えていきましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | グループごとに自己紹介をしてください。 あなたの名前、子どもの名前(学年、クラスなど)、そして、 あなたが今まで一番おいしかったときの食べ物とその場面 (または、好きな料理、好きな食べ物)を紹介してください。 ※(アイスブレイク)では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい(3人、4人も可)。 ※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 2 | これからワークシートに記入しながら、グループごとに話し合いを行っていきます。 全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。 司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。 決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●エピソード ●ワーク1 書き込み 発表 話し合い | 17 | それではワークシートのエピソード1を私が読みますので、皆さんはワークシートをご覧になってください。 次はワーク1です。 最近の子どもたちの生活の中で気になることは何ですか。 「困ったなと思ったこと」「たいへんだなと思ったこと」「最近こんな風になっちゃった」「大きくなって子どものこころが気になる」など、思い浮かんだことについて、それぞれ書いてください。時間は3分間です。 次に、ワーク1に書いたことをグループ内で発表しましょう。お互いの発表を聞きながら気づいたことがあったら、どんどん出し合ってください。 | ○参加者に読んでもらってもよい。 ○自分の家庭のことだけでなく、一般的な子どもの生活習慣のことで気になることをあげていく。具体的な場面のことを例示してもよい。 ○ここでは子どもの環境の作りに向けた保護者の配慮について、発表があるとよい。 ○批判的にならないようお互いに傾聴しながらすすめる。 |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|---|--|
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 発表 話し合い | 15 | 次に、ワーク2を考えてみましょう。 ワーク1の中から出た話題や気になることで思ったこと、どうしたら改善できるか、またはヒントになりそうなことを考えてみましょう。 考えたことをそれぞれの記入欄に書いてください。書く時間は3分間です。 それでは一人ずつ発表してください。全員が発表した後、気になることについて詳しく話し合ってみましょう。 話を聞きあう中で、実際に取り組んでいることや改善の方法のヒントやアイデアも出し合ってみましょう。 | ○それぞれのグループで出た話題をさらに深めて参加者で考えてみるように促してもよい。 ○全員がワーク2の記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない。) ○子どもの生活習慣作りへの親としての配慮や工夫を話してもらうようにする。 |
| 活動3 ●ワーク3 書き込み 発表 | 10 | 次はワーク3です。 話し合いをヒントにしながら、「生活リズム・生活習慣」のことであなたが自分の家で取り組んでやってみようと思うことを1つ書きましょう。 | ○ワーク3はこのプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 ○時間があれば、グループ内で発表するとよい。 |
| まとめ★ (ふりかえり) | 7 | 今日の話し合いをとおしてこれから心がけようと思ったことを書いてみましょう。 (※時間があれば) ワーク3に書いたことを中心に、今日の活動をとおして考えたことや気づいたことを発表してください。 | ○話し合いの時間が十分でなかった時は、これからもPTAなどを利用し、親同士の話し合いや研修の機会を持つことができることを伝える。 |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |

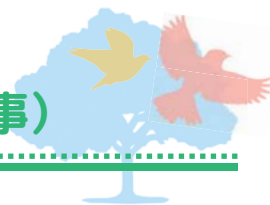


- 家族みんなでどのようなライフスタイルを作りたいですか？また、そのためにはどのような取組・工夫が必要ですか？
- 食事の質（内容）について考えましょう。（成長と栄養）
- 子どもの生活リズム・生活習慣を改善するために、私たち（親）自身の生活を見直すとなれば、どのような改善が可能ですか？

ファシリテーター用 メモ欄

②

家族の一員として(お手伝い・家での仕事)



ねらい

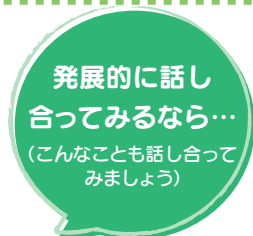
- 家庭における手伝いや仕事について振り返りながら、それぞれの家庭の実情と子どもの年齢に応じたお手伝いや仕事について考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具
- ストップウォッチ（時計）
- 付箋と用紙（必要に応じて）

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのことは | 展開のポイント |
|---|-----------|--|--|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | <p>今日のテーマは、「家族の一員として（お手伝い・家での事）」です。</p> <p>家庭における手伝いや仕事は子どもを着実に成長させます。家族との会話も増え、やり遂げたという達成感を味わうことができます。また、家族に感謝する気持ち、ものごとを最後まで行う責任感、家族の一員として役に立っているという自己有用感が育つことが期待されますし、生活体験が豊かになることで生活技術が身に付きます。</p> <p>それぞれの家庭の実情と子どもの年齢に応じた、無理せず実行できる家庭における手伝いや仕事について考えてみましょう。</p> | <p>○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。</p> |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 6 | <p>グループごとに自己紹介をしてください。</p> <p>あなたの名前、子どもの名前(学年、クラスなど)、そして、あなたが、最近楽しかったことや子どもとの一番の思い出を紹介してください。</p> <p>※(アイスブレイク)では、始めてください。</p> | <p>○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい(3人、4人も可)。</p> <p>※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。</p> |
| 役割分担 | 2 | <p>これからグループごとに話し合いを行っていきます。</p> <p>全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。</p> <p>司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたと思います。</p> <p>決まったところは、手を挙げて合図してください。</p> | <p>○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。</p> |
| 活動1★ ●エピソード ●ワーク1 書き込み | 18 | <p>それでは、ワークシートのエピソードを私が読みますので、みなさんはワークシートをご覧ください。</p> <p>それでは、ワーク1です。</p> <p>それぞれの家庭で、子どもはどんなお手伝いや仕事をしていますか。そのお手伝いを始めたのは、いつぐらい(何年生、何歳ぐらい)で、どんなことをしていたか書いてみましょう。また、そのお手伝いをとおして、どんな思いや願いを持ちながら、どんな効果を期待しましたか。</p> <p>できるだけ詳しく具体的に思い出してみましょう。</p> | <p>○参加者に読んでもらってもよい。</p> <p>○全員がワークの記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない。)</p> |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのことは | 展開のポイント |
|--|-------|--|--|
| 話し合い | | <p>※(例) お手伝いを始めたきっかけや、子どもにどんな言葉をかけたり相談したりしたのか、などもあるかもしれません。 書く時間は3分間です。</p> <p>それでは、ワーク1に書いたことをグループ内で出し合ってみましょう。はじめに順番に簡単に出し合ってみましょう。</p> <p>それぞれの家庭で、お手伝いや仕事の分担などは様々で、また家庭の生活時間の過ごし方などによって子どものお手伝いも変化していると思います。それぞれのお手伝いはじめた時期や内容、きっかけやお手伝いのおきに子どもたちの様子について、話し合ってみましょう。</p> | <p>○グループの全員に話ができるようにする。</p> <p>○具体的な話や経験、言葉かけ、始めた頃、今の様子などについての話題を出し合うこともできる。</p> <p>○お手伝いをできるようにする工夫や言葉かけなどがあれば引き出せるようにする。</p> |
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 話し合い | 18 | <p>次は、ワーク2です。 さまざまなお手伝いや家での仕事について意見が出たと思います。</p> <p>ワーク2には、これから子どもにどんなお手伝いや家での仕事をしてもらいたいのか。また、どうしてそのお手伝いをしてもらいたいのか理由も書いてみましょう。 2分間で書いてください。</p> <p>ワーク2で書いたことをグループで発表してみましょう。グループの全員が発表した後の時間で、より効果的にお手伝いがすすむヒントやアドバイスをお互いに出し合ったり、話し合ったりしてみましょう。</p> | <p>○子どもに家庭の中でどんな役割を持ってほしいか、お手伝いをとおしてどんなことを学んでほしいか、グループでたくさん出し合うとよい。</p> |
| 活動3 ●ワーク3 書き込み | 10 | <p>次はワーク3です。 今日の話し合いをとおして、子どもたちも保護者も無理なく実行できそうなお手伝いやこれから一緒に取り組んでみたいことについて書いてみましょう。</p> | <p>○ワーク3はこのプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。</p> |
| まとめ★ ●ワーク5 (ふりかえり) | 5 | <p>それぞれの家庭の実情と子どもの年齢に応じたお手伝いや仕事について考えてみました。 気づいたことや、今日の話し合いをとおしてこれから心がけようと思ったことを書いてみましょう。</p> | <p>○時間があれば、発表してもよい。</p> |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |



- 「ワーク2」で話し合ったお手伝いについて、初級編から中級編、上級編と最終的な自立までの段階を考えてみましょう。
- 子どもが自立できるようにはたらきかけるために、①子どもに気をつけるよう注意すること、②親自身の意識や行動を変える必要があること、を考えてみましょう。

ファシリテーター用 メモ欄

③

インターネットとうまくつきあうために



ねらい

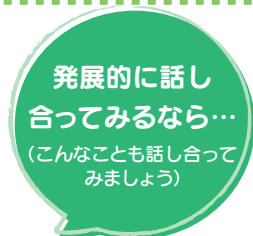
- 子どもの携帯電話・スマートフォン等のインターネット環境の機器の使い方を考えることで、携帯電話・スマートフォン等がある社会における課題についての理解を深める。
- 現在、子どもの携帯電話・スマートフォン、ゲーム機器等の使い方不安や悩んでいる保護者、または無関心な保護者に対して、子どもと携帯電話・スマートフォン等の情報機器の使い方について家庭で話し合うきっかけをつくる。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計） ○付箋と模造紙（必要に応じて）

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|---------------------------------|-------|--|--|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | 今日のテーマは、「インターネットとうまくつきあうために」です。もう既に子どもに携帯電話やスマートフォン等を持たせている保護者もまだ持たせていない保護者も一緒に、子どもとインターネットのかかわり方について話し合ってみましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | グループごとで自己紹介をしてください。 あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたが子どもの頃に好きだった遊び（または、好きなアニメ、夢中になったテレビ、など）を紹介してください。 ※(アイスブレイク)では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい（3人、4人も可）。 ※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 2 | これからワークシートに記入しながら、グループごとに話し合いを行っていきます。 全体の進行は私がしますので、グループ内の司会者一人決めてください。 司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。 決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●ワーク1 書き込み 発表 | 17 | それでは、ワーク1に移ります。 はじめに、子どもとインターネットとのかかわりについて心配されていることを、できるだけたくさん挙げてみましょう。 心配だなと思うことや気になることを、ワーク1に記入してください。またその理由も書いてみましょう。書く時間は3分間です。 3分が経過したら合図をしますので、それぞれ書いたことをグループ内で発表し、情報交換をしてください。その際、司会者は、全員が発表できるように進行をお願いします。 | ○具体的な場面や経験したことなど気になることを出し合う。 ○記入しにくい場合は、エピソードなど具体的名場面など例示する。 ○自分の家庭でどのようにインターネットなどの情報機器を扱っているか、また扱わせたいかについても触れながら出し合えるとよい。 |
| 活動2 ●資料 | 2 | 資料を読みましょう。 私が読みますので、資料を見てください。 | ○インターネットは、パソコンやスマートフォンだけでなく、携帯ゲーム機や音楽プレーヤー等からも利用できることを伝える。 |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|---|-------|---|---|
| 活動3★ ●ワーク2 書き込み 話し合い | 15 | <p>次に、子どもとインターネットとのかかわりについて、子どもが様々なトラブルに巻き込まれないようにするために、保護者としてできることについて考えてみましょう。</p> <p>まずは個人で考えます。ワーク2の枠の中に上の事例やふだん見聞きしているトラブルを書きましょう。そして子どもをインターネットのトラブルから守るために「家庭でできること」や「学校やまわりの保護者と協力してできること」を書いて下さい。時間は3分間です。</p> <p>次に、ワーク2に書いたことをグループ内で発表しましょう。お互いの発表を聞き、子どもとインターネットとの関わりについて家庭でどのように指導していけばよいか話し合ってください。</p> | <p>※付箋に記入させ、交流してもよい。</p> <p>例)</p> <p>①「心配なこと」は赤色付箋、「家庭でできること」は黄色の付箋、「協力してすべきこと」は青色付箋に書いて下さい。</p> <p>②書き終わったら、模造紙に自分の付箋を貼ってください。</p> <p>③似ているものをグループ分けしながら、話し合いを深めてください。</p> <p>④解決や対応へのヒントなどを出し合う。</p> |
| 活動4 ●ワーク3 書き込み 発表 | 12 | <p>それでは、ワーク3です。</p> <p>実際に、家庭で保護者として対応できているか確かめてみましょう。表の中に記入してみましょう。③のネチケットの指導と④のルール・約束については、具体的な内容を書きましょう。</p> <p>最後に全体で発表し、出された意見を交換します。それでは発表しましょう。子どもをインターネットのトラブルから守るために「家庭でできること」や「学校やまわりの保護者と協力してできること」の順に発表してください。</p> | <p>○グループで出た話題や対応のヒントなどの意見の交流をする。</p> <p>○「青少年インターネット環境整備法第6条」では、子どもにインターネットを利用させる際の保護者の責務が規定されています。</p> |
| まとめ★ (ふりかえり) | 3 | <p>今日の話し合いをとおして考えたことや気づいたことを書いてみましょう。</p> <p>お疲れ様でした。今日の話し合いで出たことを、ぜひ家庭でも話題にして、安全にインターネットを利用する方法を家族で話すきっかけにいただけたら幸いです。</p> <p>最後に、【資料編】には、インターネットなどに関する資料を掲載しています。相談がある場合の連絡先の資料もあります。ぜひ読んでみましょう。</p> | <p>○資料編を話題にしなが、子どもとネットとのかかわりについて知らせる。</p> <p>○さらに子どもを交えた学習会や研修会で一緒に学ぶ方法もあります。</p> <p>○資料編にある相談箇所につながる相談方法もある。</p> |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |



- 携帯電話・スマートフォンの家庭のルールづくり
(使用する時間帯、ゲーム、料金のことなど、明確にすべきルールを話し合しましょう。)
- SNS (ソーシャル・ネットワークング・サービス) でのつきあい方
(LINEでの友達申請やトークにどのように対応するか、Facebookでの情報の開示の仕方(友達だけか、公開か) など、なるべく具体的に考えてみましょう。)

ファシリテーター用 メモ欄

④

子どもとお金について考えてみましょう



ねらい

「子どもとお金」に関する考え方や扱いは家庭によって様々です。お金の価値を知ることや有効に使うこと・管理することは、社会生活を営む上でとても大切なことです。

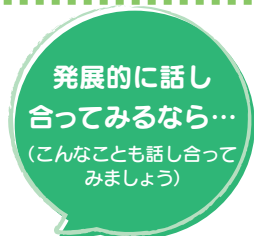
●各家庭における子どものお金の考え方・扱い方を参加者で話し合いながら、子どもとお金について考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計）

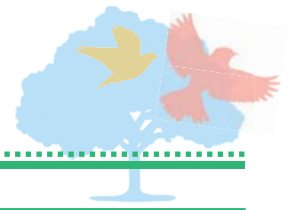
| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのことは | 展開のポイント |
|---|-----------|---|---|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | 今日のテーマは、「子どもとお金について」です。「子どもとお金」に関する考え方や扱いは家庭によって様々です。お金の価値を知ることやお金を有効に使うこと・管理することは、社会生活を営む上でとても大切なことです。子どもとお金について考えてみましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 6 | グループごとで自己紹介をしてください。あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたが子どもの頃に集めていたもの（今集めているもの、コレクションなど）を紹介してください。 ※(アイスブレイク)では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい(3人、4人も可)。 ※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 2 | これからグループごとに話し合いを行っていきます。全体の進行は、私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●エピソード ●ワーク1 書き込み 発表 話し合い | 15 | それでは、ワークシートのエピソードを私が読みますので、みなさんはワークシートをご覧ください。 それでは、ワーク1です。それぞれの家庭で「子どもとお金」に関する考え方や扱いはさまざまです。子どもが成長して、自分でお金を管理し、お金の価値について十分理解してほしいものです。そこで、子どもにはじめてお金を持たせたときのことを思い出してみよう。お金を渡したのは、いつの頃でしたか。そのとき子どもにどんな言葉をかけましたか。思い出して書いてみましょう。書く時間は4分間です。 それでは、ワーク1に書いたことをグループ内で出し合ってみよう。 | ○参加者に読んでもらってもよい。 ○全員がワークの記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない。) |
| 活動2 ●ワーク2 書き込み | 15 | 次にワーク2を見てください。子どもには、いつ、いくらくらいのお金が必要だと思いますか。あなたの家庭では、いくつぐらいから、どのくらいのお金を渡しているかを考えながら書いてみましょう。(あるいは、これから渡そうと思いますか。) | ○どのくらいの年齢になってから、自分でお金の管理ができるようになってほしいかを考える。 |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|---|---|
| 発表 話し合い | | <p>おこづかいを渡していない場合、必要なものがある場合にどうしているのか、自分で買い物をする場合について書いてみましょう。</p> <p>それでは、グループで順番に発表してみましょう。全員の発表が終わったら、それぞれの家庭でいくつぐらいから、どのぐらいの金額をどのように渡しているのかも出し合いながら話し合ってみましょう。</p> | <p>○おこづかいを考えていない場合、いくつぐらいからお金を持たせることを考えているか書いてもらう。</p> <p>○子どものお金の使い方や扱い方についての様子も出し合いながら進める。</p> |
| 活動3★ ●ワーク3 書き込み 話し合い | 13 | <p>次は、ワーク3です。それでは、子どもが扱うお金について考えてみましょう。</p> <p>毎日の生活の中で、子どもになったつもりで必要なお金について書き出してみましょう。</p> <p>子どもになったつもりで、○の中に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に買う必要があるもの ・時々買いたいもの ・お金を貯めて買うもの ・急に必要になるもの <p>を例のように書き出してみましょう。そして、書き出したら、子どもにまかせてもよいと思うものに○を囲み、中央に向けて→を引いてみましょう。</p> <p>○で囲んで→を引いたものについて、子どもにとって必要だと思える金額の合計を書き、子どもにどんな渡し方をするのか考えてみましょう。書く時間は5分です。</p> <p>それでは、ワーク3を書き込んだら、それぞれのグループでいくつぐらいの金額で、どんなものが必要と考えたか出し合って、話し合ってみましょう。</p> | <p>○子どもになったつもりでほしいものを出しあい、保護者との違いを出し合えるように。</p> <p>○実際に子どものほしいものをだして、いくらぐらいかを比べてみる方法もある</p> <p>(例) 話題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年玉や臨時収入(祖父母等から)のとき ・ほしいものがある場合 ・家庭でのルールについて ・管理の仕方(おこづかい帳、貯金) ・お金の使うとき(任せる、報告) |
| 活動4 ●ワーク4 書き込み 発表 | 5 | <p>ワーク4です。子どもたちに、お金についてどんなことを学んだりどんな力をつけたりしてほしいと思いますか。また、それを学ばせるためにどのような取組・工夫をしますか。ワーク4に書き込んで順番に出し合ってみましょう。</p> | |
| まとめ★ (ふりかえり) | 3 | <p>それぞれの家庭の実情と子どもの年齢に応じて、子どものお金の扱い方や考え方もさまざまです。子どもにとって金銭教育も必要かもしれません。今日の話し合いをとおして気づいたことや、これから心がけようと思ったことを書いてみましょう。</p> | <p>○このプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。</p> <p>○時間があれば、発表してもよい。</p> |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |



- 親子で「ワーク3『必要なお金』」にチャレンジ、親子で話し合ってみましょう。
- 親子で一緒に家族とお金のつきあい方を考えてみましょう。
(親の収入から時給を算出する、子どもが大人になって自立するまでにかかる経費、借金した時にひと月に払える金額、など)

ファシリテーター用 メモ欄



5

地域や社会へのかかわり

ねらい

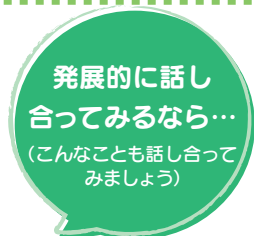
- 地域でかかわりのある人、大切なものや行事などについてふりかえりながら、保護者自身も地域を知り、地域の力を借りて子育てをすることについて考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計） ○付箋、模造紙、A3用紙（※付箋の活用も可能）

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|--|-----------|---|---|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | <p>今日のテーマは、「地域や社会へのかかわり」です。</p> <p>地域でかかわりのある人、大切なものや行事などについて振り返りながら、保護者自身も地域を知り、地域の力を借りて子育てをすすめる地域のことについて考えてみましょう。</p> | <p>○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。</p> |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | <p>グループごとに自己紹介をしてください。</p> <p>あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたが今までに行った場所や訪れたところでもよかったところ（または、感動した場所、きれいだった場所）を紹介してください。</p> <p>※(アイスブレイク)では、始めてください。</p> | <p>○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい（3人、4人も可）。</p> <p>※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。</p> |
| 役割分担 | 1 | <p>これからグループごとに話し合いを行っていきます。</p> <p>全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。</p> <p>司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。</p> <p>決まったところは、手を挙げて合図してください。</p> | <p>○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名するのが主な役割であることを伝える。</p> |
| 活動1★ ●ワーク1 書き込み 発表 話し合い | 15 | <p>それでは、ワーク1です。</p> <p>あなたが子どもの頃のことを思い出してください。地域の行事や地域にある伝統的なことなどにはどんなことがありましたか。どんな思い出もあるのかも書いてみましょう。</p> <p>書く時間は5分間です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動でしたか。 ・どんな思い出がありますか。（詳しく） ・どんな人がいましたか。 ・どんな関わりがあった。 ・どんないいことがありましたか。 <p>それでは、ワーク1に書いたことをグループ内で出し合ってみましょう。どんな思い出があったかも出し合ってみましょう。</p> | <p>○全員がワークの記入ができるまで待つ。（どうしても書けない場合、無理はしない。）</p> <p>○子どもころの思い出について出し合う。（祭りやイベント、みんなで活動したことなど・・・）</p> <p>○似たような行事やイベント、活動、伝統的なものなど地域での違いや似ていることなどについても出し合うのもよい。</p> |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|--|--|
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 話し合い | 15 | <p>次は、ワーク2です。 地域の中で今も残っているものや行事、活動もあると思います。今、住んでいる地域でお互いに支えあったり、地域全体で活動したりしていることについて、考えてみましょう。住んでいる地域では、どんな人がどんな活動をしていますか。書き出してみましよう。 書く時間は3分です。</p> <p>それでは、ワーク2を書き込んだら、それぞれのグループで地域の中で、どのような活動で、どのような人たちが活動しているのか話し合ってみましよう。</p> | <p>○地域の中で、どのような活動で、どのような人たちが活動しているかたくさん出し合う。</p> <p>○例などを参考に、伝統的な行事だけでなく地域全体を支えている活動やイベント、グループなどを想起する。</p> <p>○地域で活動している行事、内容、イベントやグループ、地域の人材などについて気づきを持たせる。</p> |
| 活動3 ●エッセイ ●ワーク3 話し合い | 15 | <p>それでは、ワークシートのエッセイを私が読みますので、皆さんはワークシートをご覧になってください。</p> <p>子どもと一緒に参加した地域の行事やイベント、活動にはどんなことがありましたか。 また、子どもたちも保護者も地域の中で、行事やイベントなどに参加したり地域で取り組んだりできそうなことはないか考えてみましょう。自分ならこんな役割や参加の仕方ができそうかどうか（現在していることも含めて）を出し合ってみましよう。 それでは、ワーク3に書き込んで話し合ってみましよう。</p> <p>・時間があれば、グループで地域の中での人々のつながりを持つための工夫やヒントについて話し合ってみましよう。</p> | <p>○参加者に音読してもらってもよい。</p> <p>○ワーク3はこのプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 (ポイントの例) ★地域にこんなお返しができる。 ★いざというときに、地域のつながりは大切。 ★忙しさの中でも、つながれる活動の持ち方はないか。</p> |
| まとめ★ (ふりかえり) | 5 | <p>地域には関わりのある人や、地域の行事などがまだまだありそうです。それぞれの家庭の状況と子どもの年齢に応じて、地域とどのような形につながっていくか考えてみました。気づいたことや、今日の話し合いをとおしてこれから心がけようと思ったことを書いてみましょう。</p> | <p>○時間があれば、グループ内で発表するとよい。</p> |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |

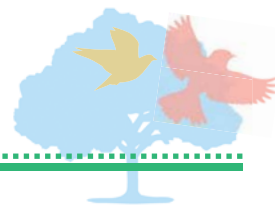


- あなたは地域で現在行っている活動を継続したいですか？別の活動を始めたいですか？
- 地震で大きな災害が発生したと想定します。あなたの地域でその時に活用できるつながりは何ですか？足りない部分は何ですか？

ファシリテーター用 メモ欄

⑥

子どもの見方を変えてみませんか



ねらい

- これまでに子育てを振り返りながら子どもの成長を見つめ直す。
- 子どもの心の成長や変化をどう受け止め、子どもに寄り添いながらどのような言葉をかけていけばよいか考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計） ○カードまたは付箋

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|---------------------------------|-----------|---|---|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | 今日のテーマは、「子どもの見方を変えてみませんか」です。幼かった頃から学童期へと成長し、子どもの行動や態度が少し変わってきたかもしれません。子どもの心の成長や変化をどう受け止め、子どもに寄り添いながらどのような言葉をかけていけばよいか考えてみましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | グループごとで自己紹介をしてください。 あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたの子どものことで最近うれしかったこと（子どもが夢中になっていること、子どもの好きな食べ物など）を1つ紹介してください。 自己紹介の時間は一人一分以内でお願いします。 ※(アイスブレイク)では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい（3人、4人も可）。 ※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 1 | これからワークシートに記入しながら、グループごとに話し合いを行っていきます。 全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。 司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。 決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●ワーク1 書き込み 発表 | 15 | それでは、子どもの変化について考えてみましょう。 子どもについて、小さかった頃（幼児期）とくらべて、最近変わったなと思うことを書きだしてみよう。（または、思い出してみよう） ・例えば、「日課表を見て、自分から準備をするようになった。」とか「口答えをするようになった。」など変わったなと思うことや姿を書いてみましょう。 ・内容は「よい」と思う変化でも、「困る」と思う変化でもよいです。 書く時間は4分間です。 (※カードや付箋の活用も考えられる) 次に、書いたことを順番に一人1つずつ、グループで発表しましょう。 | ○ワーク1に書かれている例を参考に説明する。 ○子どもの成長の変化のこと、成長に対しての周囲の対応の戸惑いなど、グループでたくさん出し合うとよい。 |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--------------------------------------|-------|---|---|
| 活動2 ●ワーク2 話し合い | 13 | <p>それでは、次に「ワーク1」のことについて、みんなで考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループのみんなで、その変化が子どもの「どんな成長を示しているのか」一緒に考えて、出し合ってみましょう。 ・そのとき、どのような言葉をかけたらよいか、またどのような対応をしたら効果的か、考えてみんなで話し合ってみましょう。 ・周りの人に言ってもらったこと、参考になったことなどをワーク2に書きましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○様々な変化について、違う言葉や視点の意見を出し合う。 ○具体的な言葉や対応を出し合えるとよい。 <p>※活動1と活動2をまとめて話し合うことも考えられる。</p> |
| 活動3★ ●ワーク3 書き込み 話し合い | 20 | <p>次はワーク3です。</p> <p>それでは、大人と子ども役を決めてロールプレイをします。まず、ワークシートの資料や活動1で話し合った中から、「NGワード・GOODワードの言葉」を選び、「ふだんの生活の場面」を設定して、やってみましょう。例を参考にしながら、それぞれNGワード、GOODワードのときの言葉を考えてみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で順番にやってみましょう。 ・お互いに気持ちを込めて発表してみましょう。 <p>グループの中で、それぞれの対応の仕方や感想を話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の言葉のかけ方次第で、子どものやる気や頑張りは変わります。「早く勉強しなさい！もう何時だと思っているの！」ではなく、「何時から勉強するの？今日はちょっと遅いみたいね。」と事実を感情的にならずに伝え、子どもの自主的な判断・行動を促したいですね。 | <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な場面を出して話し合うとよい。 ○時間があれば、他の言葉を選び、どんな言葉をかけてどのような対応をするのか出し合ってみる。 ○保護者として子どもの成長を認めながら、成長に対する言葉がけや対応についてグループで出し合えるようにする。 |
| まとめ★ ●ワーク4 (ふりかえり) | 5 | <p>子どもの成長を振り返ってみて気づいたことや、今日の話し合いをとおしてこれから心がけようと思ったことを書いてみましょう。</p> <p>今日の活動をとおして、考えたことや気づいたことをヒントにして、子どもの心の成長や変化を受け止めながら、子どもの成長に応じた寄り添い方や言葉のかけ方を心がけてみましょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○このプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 ○時間があれば、グループ内で発表するとよい。 |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |

発展的に話し合ってみるなら…
(こんなことも話し合ってみましょう)

- ワークシート⑩「その子らしさ」をやってみましょう。
- このプログラムであなたが行った振り返りを家に帰ってお子さんとしてみましょう。何について振り返ったら、お子さんからどのような反応が返ってくるか予想してみましょう。
- 子育ての悩みや不安を解消するには、少し先の段階を知っている子育ての先輩とつながっていることが重要です。あなたにアドバイスをくれる先輩は誰ですか？どのような相談をしたことがありますか？

ファシリテーター用 メモ欄

7

子どもの思春期に対して

～心も身体も大人へ近づく
子どもたちと向き合って～



ねらい

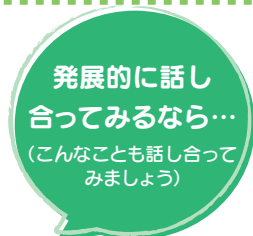
- 思春期は、保護者から離れたり近づいたりしながら成長していく時期です。保護者や先生に反抗したり、何となくイライラしたり、無気力になったりする様子がみられます。保護者の方も、腹が立ったり不安になったり、子ども以上に敏感になってしまうこともあります。
- 参加者同士で思春期の子どもについて話し合うことにより、子どもとのよりよい関係づくりについて考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計） ○付箋

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|---------------------------------|-------|--|---|
| 導入 (趣旨説明) | 1 | 今日のテーマは、「子どもの思春期に対して」です。 思春期は、保護者から離れたり近づいたりしながら成長していく時期です。保護者や先生に反抗したり、何となくイライラしたり、無気力になったりする様子がみられます。保護者の方も、腹が立ったり不安になったり、子ども以上に敏感になってしまうこともあります。 参加のみなさんで思春期の子どもについて話し合うことにより、子どもとのよりよい関係づくりについて考えてみましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 7 | それでは、はじめに『私〇〇です』ゲームをします。 今から「私は、〇〇です」という文書を思いっただけ書いてみてください。ワークシートの裏に書いてみましょう。趣味、好きなこと、性格など何でもよいです。自分のことですから、一番よくわかっていますよね。 何か質問はありますか。 では時間は2分間です。では、はじめます。 ※(2分経過) では、いくつ書けたか、聞きます。○個の人、○個の人、…。 ○個以上の人、に拍手をしましょう。 それでは、グループごとで自己紹介をしましょう。 あなたの名前、子どもの名前(学年、クラスなど)、そして、あなたがさっき書いた〇〇を紹介してください。 では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい(3人、4人も可)。 ※(アイスブレイク)の前に、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 2 | これからグループごとに話し合いを行っていきます。 全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。 司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。 決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●ワーク1 書き込み 発表 | 15 | それでは、ワーク1「思春期あるある」です。 あなたが子どもの頃を思い出してみましょう。 自分が思春期だった頃、「こんなことがあった」「こんなことに困っていた」「こんなことを考えていた」「こんなことを言われていやだった」「うれしかったこと」など、「思春期あるある」を書いてください。 書く時間は5分間です。 | ○全員がワークの記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない)。 ○自分の思春期の頃の思い出について出せるとよい。 |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|---|--|
| 話し合い | | それでは、ワーク1に書いたことをグループ内で出し合ってみましょう。どんな思い出があったかも出し合ってみましょう。 | |
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 話し合い | 20 | 次は、ワーク2です。 それでは、ワーク1のようなことに対して、親や周囲の人から「してもらってよかったこと」「言ってもらってよかったこと」、また逆に「いやだった」「困ったな」という対応はどんなことでしたか？書いてみましょう。 書く時間は3分間です。 それでは、思春期の頃に自分が「してもらってよかったこと」「いやだったこと」について、出し合ってみましょう。 それぞれのグループでよかったこと、いやだったことの対応について話し合ってみましょう。 | ○自分の体験や経験したことの対応を想起させて、グループ内でお互いに出し合えるようにする。 |
| 活動3★ ●ワーク3 書き込み 話し合い | 10 | それでは、ワーク1の話し合いで出てきた話題から1つ場面を選んでみましょう。その場面のときにどんな対応や、どんな言葉をかけたり、どんな接し方をしたりするか考えてみましょう。 ・(グループごとで)場面を選ぶ。 ・そのときにかける言葉や対応を考えて書く。 書き終えたらグループで順番に話し合ってみましょう。 時間があれば、違う場面をさらに選んで出し合ってみましょう。 今日の話し合いで出た話題や子どもにどんな接し方をしていくことが大切かということについて、グループごとに発表してみましょう。(抽出でもよい) | ○自分の経験や思い出の中に対応のヒントがあることが出せるように。 ○グループごとの司会者は場面を選び、書いたら順番に話し合う。 ○時間があれば、違う場面をさらに選んで出し合ってみましょう。 ○時間があれば、グループからでた意見や話題について発表する。 |
| まとめ★ ●エッセイ (ふりかえり) | 3 | それでは、ワークシートのエッセイを私が読みますので、皆さんはワークシートをご覧ください。 子どもたちの思春期の子どもたちの接し方について気づいたことや、今日の話し合いをおしてこれから心がけようと思ったことを書いてみましょう。 | ○参加者に音読してもらってもよい。 ○ワーク3はこのプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |



- これまでの思春期の子どもとの対応で失敗した例、成功した例をお互いに話し合い、その(失敗・成功)した理由を一緒に考えてみましょう。
- 思春期の子どもへの対応の仕方について方針をまとめてみましょう。①声を掛けずに見守ること②目に余ったら注意すること、③明確に反対(禁止)すること

ファシリテーター用 メモ欄

⑧

子どものサインに気づくには!!



ねらい

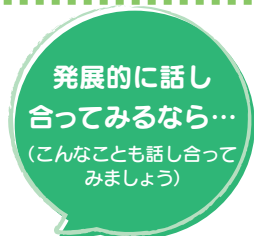
- いじめや不登校といった問題の未然防止や早期発見のために、保護者として気をつけたいことについて考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計） ○付箋

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|---|-----------|--|--|
| 導入 (趣旨説明) | 2 | <p>今日のテーマは、「子どものサインに気づくには!!」です。子どもが発するサインやシグナルについて、みなさんと一緒に考えていきましょう。</p> | <p>○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。</p> |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | <p>グループごとで自己紹介をしてください。あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）を紹介しましょう。</p> <p>そして、もしあなたが無人島にいるとして、一つだけ持っていけるものがあるとしたら何を持っていか紹介してください。</p> <p>※(アイスブレイク)では、始めてください。</p> | <p>○参加者と子どもの名前（学年、クラス）のほかに、もう一つ紹介してもらおう</p> <p>○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい（3人、4人も可）。</p> <p>※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。</p> |
| 役割分担 | 2 | <p>これからワークシートに記入しながら、グループごとに話し合いを行っていきます。</p> <p>全体の進行は私の方でしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。</p> <p>司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。</p> <p>決まったところは、手を挙げて合図してください。</p> | <p>○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。</p> <p>※付箋と模造紙を使って書き出してもよい。付箋を張りあって、お互いの考えを見ながら話し合う方法もある。</p> |
| 活動1★ ●ワーク1 書き込み | 15 | <p>さて、子どもは日々、いろいろなことを経験し、感じながら過ごしています。そして、いやなことがあったり困ったことがあったりすると、周囲にさまざまなサインやシグナルを発信しているといわれています。</p> <p>それでは、子どもにいやなことがあったり、困ったりしたことがあるときに、子どもはどんな形でサインを出すのかを考えて、ワーク1に書き出してみましょう。</p> <p>普段の子どもの様子や経験などから、子どもの変化についてできるだけ多く想像してみましょう。</p> <p>時間は5分間です。</p> | <p>○自分の家庭のことだけでなく、一般的な子どもの生活習慣のことで気になることをあげていく。具体的な場面のことを例示してもよい。</p> <p>○ここでは子どもの環境の作りに向けた親の配慮について、発表があるとよい。</p> |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|--|---|
| 発表 | | 5分が経過したら合図をしますので、それぞれ書いたことをグループ内で発表し、話し合ってみましょう。その際、司会者は、全員が発表できるように進行をお願いします。 | |
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 発表 | 20 | それでは、ワーク1のような子どものサインをどのようなときに気づきましたか。またどのような場面ときに気づくと思いますか？そのときの子どもの悩みは、どんな悩みでしたか？ ワーク2に書き出してみましょう。時間は3分です。 時間になったらそれぞれ書いたことをグループ内で発表し、話し合ってみましょう。 | ○全員がワークの記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない。) ○それぞれのグループで出た話題をさらに深めて参加者で考えてみるように促してもよい。 |
| 活動3 ●ワーク3 書き込み 話し合い | 10 | 次に、ワーク3に移ります。 これまで話し合ってきたようなことや子どもの出すサインを感じ取るため、親にできる工夫は何でしょうか？ ワーク3に記入してみましょう。時間は3分間です。 それでは、親としてできること、できる工夫について、グループで話し合ってみましょう。 | ○子どもの悩みを気づいた場面の具体的な経験を話し合い、親としての配慮や工夫を話してもらうようにする。 ○グループ内で発表するとよい。 ○時間がない場合は、活動2から話し合いを続けながらすすめる。 |
| まとめ★ (ふりかえり) | 3 | 今日の話し合いをとおして、考えたことや気づいたことを書いてみましょう。 私たちがそうであったように、子どもたちもその年齢に応じて様々な悩みを抱えています。悩みは子どもの成長にもつながりますが、大人が支えてあげないと解決できない悩みにも出会います。子どもが声に出さなくても、大人が子どもの出すサインに気づいてあげられることが大切ではないでしょうか。 | ○このプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 ○話し合いの時間が十分でなかった時は、これからもPTAなどを利用し、親同士の話し合いや研修の機会を持つことができることを伝える。 |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |

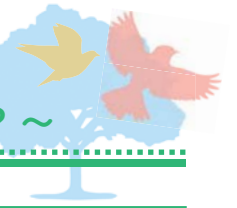


- プログラム9『子育てに悩んだときに』（悩みへの対応について）
- これから直接手を出さずに目をかけようと思っている事柄は何ですか？その転換がうまく行くようにどんな工夫をしますか？
- 日頃忙しい毎日では、つい子どもの様子がおかしいことに気づけないものです。あなたは、いつ、どのようにして、子どもの様子の変化に気づけるよう取り組みますか？

ファシリテーター用 メモ欄

9

子育てに悩んだときに… ～このようなとき どうしますか？～



ねらい

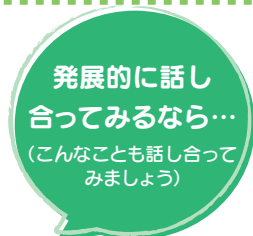
- 子どもが抱えている悩みやトラブルについて、どう対応してよいか迷うことがあります。子どもがトラブルで悩んだり不安を抱えたりしているときの保護者の対応を話し合うことにより、子どもの心に寄りそえる支え方について考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計）

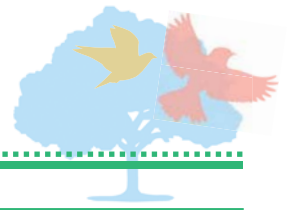
| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|--|-----------|---|--|
| 導入 (趣旨説明) | 2 | <p>今日のテーマは、「子育てに悩んだときに」です。日々の生活の中で、子どもが不安や悩みを抱えたりトラブルになったりしたとき、保護者の対応について話し合いながら、子どもの心に寄りそえる支え方を考えてみましょう。</p> | <p>○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。</p> |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | <p>グループごとで自己紹介をしてください。あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたが子どものころ、よく見ていたテレビ番組（または、好きだった・はやっていた歌）を紹介してください。</p> <p>※(アイスブレイク)では、始めてください。</p> | <p>○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい(3人、4人も可)。</p> <p>※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。</p> |
| 役割分担 | 2 | <p>これからグループごとに話し合いを行っていきます。全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。</p> <p>決まったところは、手を挙げて合図してください。</p> | <p>○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名するのが主な役割であることを伝える。</p> |
| 活動1★ ●エピソード ●ワーク1 書き込み 発表 | 13 | <p>それでは、ワークシートのエピソードを私が読みますので、みなさんはワークシートをご覧ください。</p> <p>それでは、エピソードをもとにワーク1を考えてみましょう。あなたならこのあとどのように対応しますか。①～⑨までのうち、あなたがしそうなことに○をつけてみましょう。1つとは限りません、いくつかあてはまりそうなものに○をつけてみましょう。または、それ以外のことについては⑩に書きましょう。右側の欄は、あとからみんなで考えていきます。書く時間は4分間です。</p> <p>それではワーク1に書いたことをグループ内で発表しましょう。発表する時間は1分程度でお願いします。選んだ理由も簡単に話してみましょう。</p> | <p>○参加者に音読してもらってもよい。</p> <p>○全員がワークの記入ができるまで待つ。1つだけでなく、自分がしそうなことに○をつける。</p> <p>○どういう状況かはっきりしないので、対応を選びにくい面がある。正解があるわけではないので自分の考えで選ぶようによびかける。</p> |

| 展開 | 時間(分) | ファシリテーターのこぼ | 展開のポイント |
|--|-------|---|--|
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 発表 話し合い | 20 | <p>それぞれの対応を選ぶときに、様子や状況がよくわからないので選びにくいこともあったかもしれません。それでは、ワーク2です。</p> <p>ここでは、それぞれの対応をする場合に、うまくいくように心がけたり、配慮したりすることを考えてみましょう。まず、自分の選んだ対応について書いてみましょう。時間がある場合は他の場合も書いてみましょう。思いつく項目だけでかまいません。時間は5分間です。</p> <p>それぞれの対応への意見や感想などをグループで話し合ってみましょう。</p> <p>そして、それぞれの対応について、うまくいくために工夫できそうなことや改善に向けた大切なポイントなどについて気がついたことを出し合ってみましょう。また、似たようなことや経験がある場合は出し合ってみましょう。</p> | <p>○全員がワークの記入ができるまで待つ。(どうしても書けない場合、無理はしない。)</p> <p>○それぞれの対応の中に、状況がはっきりしないので答えにくい部分に対してのどんなことが必要なのか出し合うようにする。</p> <p>○付箋を使って出し合う方法もある。</p> <p>○自分の経験などの話題の広がりを出せるようにする。</p> |
| 活動3 ●ワーク3 書き込み 話し合い | 12 | <p>子どもの悩みやトラブルの内容によって対応も変わってくるかもしれません。ワーク1以外にも方法はあるかもしれません。</p> <p>それでは、今まで話し合ってきたことなどを参考にしながら、子どものことで悩んだり不安を抱えたりしたときに、相談できそうな人や場所を思いつくだけあげてみましょう。時間は3分です。</p> <p>書き終えたらグループで話し合ってみましょう。また、こんなことがあってよかった、などの経験がある場合も出し合ってみましょう。</p> | <p>○よい解決方法などが出せる場合は、自分の経験などの話題へ広がるようにする。</p> <p>○批判的にならないように配慮する。</p> |
| まとめ★ (ふりかえり) | 3 | <p>子育てのことで悩んだときや不安を抱えたとき、どのように対応をしていくのか話し合ってきました。今日の話し合いをとおして、気がついたことや、これから心がけようと思ったことを書いてみましょう。</p> | <p>○時間があれば、グループ内で発表するとよい。</p> |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |



- 問題が深刻で自分や周囲では解決できない時は、どこに相談しますか？いくつか深刻なトラブルを想定して、資料編の専門機関を見ながらどこに相談するか考えましょう。
- 悩みを抱えている保護者がいると想定してアドバイスや支え方を考えてみましょう。①どのような悩みを抱えていると想定するか、②その悩みに対してどのようなアドバイス、支え方を行うか。

ファシリテーター用 メモ欄



ねらい

- 自分の子どもと周りの子どもを比べたり、「こうあってほしい」という保護者の願いや姿にあてはめたりしていないか見直すことにより、子どもの願いや姿をありのままに受け止めていくにはどんな支え方があるのか考える。

事前準備

- ワークシートの印刷（参加者分のコピー）
- 会場設営（1グループ4～5人程度の机といす）
- 会場案内（あらかじめ4～5人のグループに分かれて着席）
- 筆記用具 ●ストップウォッチ（時計）

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|---|-----------|--|---|
| 導入 (趣旨説明) | 2 | 今日のテーマは、「その子らしさ」です。 自分の子どもを周りの子どもと比べたり、「こうあってほしい」という親の願いや姿にあてはめたりしていることはありませんか。子どもの願いや姿をありのままに受け止めていくには、どんな支え方があるのかみなさんで考えてみましょう。 | ○参加者が話しやすい雰囲気になるように、明るく司会することを心がける。 |
| 自己紹介 アイスブレイク (グループ分け) | 8 | グループごとで自己紹介をしてください。 あなたの名前、子どもの名前（学年、クラスなど）、そして、あなたが子どものころ、集めていたもの（または、どんな遊びをしていたか）を紹介してください。 ※(アイスブレイク)では、始めてください。 | ○参加者全体の人数によって、グループごとの人数は変えてもよい（3人、4人も可）。 ※(アイスブレイク) アレンジしながら、グループ分けをしてもよい。 |
| 役割分担 | 2 | これからグループごとに話し合いを行っていきます。 全体の進行は私がしますので、グループ内の司会をする方を一人決めてください。 司会の方には、グループの全員が発表できるように、一人ずつ順番に話をするように進めてもらいたいと思います。 決まったところは、手を挙げて合図してください。 | ○司会者は、グループの全員が次々に話していくように、指名をするのが主な役割であることを伝える。 |
| 活動1★ ●エピソード ●ワーク1 書き込み | 15 | それでは、ワークシートのエピソードを私が読みますので、みなさんはワークシートをご覧ください。 ワーク1です。 このエピソード読んで、どんなことを感じましたか。気になるところを書いてみましょう。 時間は3分間です。 | ○参加者に音読してもらってもよい。 ○全員がワークの記入ができるまで待つ。（どうしても書けない場合、無理はしない。） |

| 展 開 | 時間 (分) | ファシリテーターのこたば | 展開のポイント |
|--|-----------|---|--|
| 発表 話し合い | | それでは、ワーク1に書いたことをグループ内で発表しましょう。発表する時間は一人1分程度でお願いします。お互いの発表を聞きながら、気づいたことがあったら、出し合ってみましょう。 | ○1人だけ話し過ぎないように配慮する。 |
| 活動2★ ●ワーク2 書き込み 発表 話し合い | 15 | 次に、ワーク2です。 あなたが、最近の子どものことで気になることを3つあげてみましょう。時間は3分間です。 それでは、子どものことで気になることを1人ずつ発表してください。 全員が発表したあとに、それぞれ気になることに対しての意見や感想などをグループで話し合ってみましょう。 また、似たような経験がある場合は出し合ってみましょう。 | ○自分の経験などの話題へ広がるようにする。 ○否定する意見や考えになり過ぎないように配慮する。 ○解決やヒントなどについての視点を持って、話し合いをすすめる。 |
| 活動3 ●ワーク3 書き込み 話し合い | 13 | それでは、みなさんで出し合った子どもについて気になることに対して、どのような言葉かけやどのような関わり方をしていくとよいか、その対応について考えてみましょう。時間は3分です。 書き終えたらグループで話し合ってみましょう。 | ○お互いのアドバイスやヒントを引き出しあえるようにする。 ○時間によって、そのままグループで解決やヒントにつながるよう話し合いを促す。 ○出た話題などについて、グループ間で交流してもよい。 |
| まとめ★ ●エッセイ (ふりかえり) | 5 | 最後に、ワークシートのエッセイを私が音読しますので、みなさんはワークシートをご覧ください。 今日の話し合いをとおして、気がついたことや、これから心がけようと思ったことを書いてみましょう。 | ○参加者に音読してもらってもよい。 ○このプログラム全体のふりかえりになることを参加者に伝える。 ○時間があれば、グループ内で発表するとよい。 |
| 60 | | ※話し合いの時間や参加者によって、それぞれのワークや話し合いの時間をアレンジしてみましょう。 | |

発展的に話し
合ってみるなら…
(こんなことも話し合ってみましょう)

- 子どもと同様にあなたのことも捉え直してみましょう。あなたの①現在の魅力はどのようなところですか（積極的にお答え下さい）、②将来（たとえば10年後）どのような魅力をも身につけていたいと思いますか？
- 「自分らしく」いることとあわせて、生きていく上で社会人として求められる力を身につけてはならない部分もあります。お子さんは、①どのような力がまだ十分身につけていないですか？②その力を身につけるためにどのような取組が必要ですか？

ファシリテーター用 メモ欄